授業科目名	応用行動分析学	単位数	2単位
担当教員名	青木康彦	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）			

「学位授与の方針」との関係

DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知）
DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）

授業のテーマ及び到達目標

（１）心理学の一分野である行動分析学の根源的問い「人間はなぜそのように行動するのか？」に対して、人間の行動は「意識」によって制御されているのではなく、「結果（後続事象）による選択（淘汰）」（Skinner、1981）であることを理解できる。
（２）ＡＢＡの基本原理（強化の原理、消去の原理など）を理解できる。
（３）ＡＢＡの実験パラダイム（シングルケースデザイン）を理解できる。
（４）ＡＢＡの基本原理を適用して、様々な問題に関わる人間行動（自分の行動を含めて）の制御要因についての仮説を立てられる。
（５）上記の仮説に基づいて、具体的な介入方法（問題解決の方法）を立案・実施できる。

授業の概要

本授業では、人間行動の原理について、心理学の一分野である、応用行動分析学(Applied Behavior Analysis)の基本原理を理解し、実際の様々な問題に関連する人間行動の変容について指導介入を行うことができるようにすることを目標とする。

授業計画

第１回：応用行動分析学の基礎（１）ＡＢＣフレームで行動を観察する
第２回：応用行動分析学の基礎（２）機能的に行動を理解する
第３回：指導の意味を考える（１）指導の意味・意義を理解する
第４回：指導の意味を考える（２）指導の具体的な目標・基準を理解する
第５回：具体的な行動の観察、ターゲット行動の決定
第６回：行動の原理（１）正の強化・負の強化
第７回：行動の原理（２）正の弱化・負の弱化
第８回：指導の実際（１）先行子操作
第９回：指導の実際（２）環境調整
第１０回：指導の実際（３）プロンプト・フェーディング
第１１回：指導の実際（４）時間遅延法
第１２回：指導の手続きの作成と記録の取り方、指導効果の判定法（意思決定の仕方）
第１３回：ABAを活用する（１）スクールワイドPBS（ポジティブな行動支援）の実際
第１４回：ABAを活用する（２）問題行動への対処の仕方
第１５回：子どもの視点で支援のネットワークを作るという意味・意義
科目修得試験

スクーリングでの学修

スクーリングでは、応用行動分析学の基本的な理論背景から、具体的な指導へのステップについて、事例を紹介しながら学ぶ。グループ討議や演習を行う。（第１回から第１５回全ての内容を横断的に含む。）

テキスト

（１）三田地 真実・岡村 章司（２０１９）『保護者と先生のための応用行動分析入門ハンドブック―子どもの行動を「ありのまま観る」ために』金剛出版
（２）ロバート・Ｅ・オニール他 著　三田地 真実・神山努 監訳（２０１７）『子どもの視点でポジティブに考える問題行動解決支援ハンドブック』金剛出版

参考書・参考資料等

（１）若林上総・半田健・神山務・加藤哲文（2020）『高校ではじめるスクールワイドPBS―階層的な校内支援体制整備を目指して―』ジアース教育新社
（２）石黒康夫・三田地真実（2015）『参画型マネジメントで生徒指導が変わる―「スクールワイドＰＢＳ」導入ガイド16のステップ』図書文化
（３）ミミ・ハイネマン他 著 三田地真実 監訳（2014）『子育ての問題をＰＢＳで解決しよう！』金剛出版

学生に対する評価

スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）